

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法治療学 - 中枢神経 -	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	昼間部2年	学期及び曜時間	後期	教室名	902/機能訓練室
担 当 教 員	金谷 規弘				
実務経験と その関連資 格	理学療法士として一般病院(急性期・回復期・デイケア)、クリニックでの勤務経験あり。 臨床教育認定理学療法士・学校教育認定理学療法士の資格取得。 大学院にて修士(学術)の学位を取得。				
《授業科目における学習内容》					
理学療法の脳血管障害に対する評価・治療の授業である。脳・血管系の主要疾患とその症状を理解できるようになる。 また、各検査測定(観察含む)の意義目的が説明でき、理学療法評価(各検査測定(観察含む))・治療を選択・実践できるようになる。					
《成績評価の方法と基準》					
小テストや課題などで30点、学期末テストで70点の配分で100点満点の成績評価とする。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
教科書:神経筋障害理学療法学テキスト(中枢神経障害理学療法学テキスト 改訂第3版)(南江堂) 参考書:①脳卒中理学療法の理論と技術 第4版(メジカルビュー社)②理学療法評価学 第6版(金原出版)、③DVDで学ぶ脳血管障害の理学療法テクニック(南江堂)、④ベッドサイドの神経の診かた 第18版(南山堂)、⑤脳卒中最前線 第4版(医歯薬出版)、⑥リハビリテーションビジュアルブック 第2版(Gakken)					
《授業外における学習方法》					
(予習)各回の授業内容を教科書で確認しておくこと。 (復習)実施後の授業内容を教科書と配布資料とで復習すること。実技演習後は、その復習も行ってください。					
《履修に当たっての留意点》					
苦手意識を持ちがちな脳解剖について、事前に復習して授業内での脳血管障害の病態を理解して欲しい。また、評価と治療の意義目的や効果について説明できるようになって欲しい。出来るだけ症例イメージができるように努めるので、積極的に授業に参加してください。					
授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	脳出血、くも膜下出血、脳梗塞の病態を理解し、主症状が説明できる。	PC,プロジェクター 教科書	(予習)左記の項目を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習	
	各コマに おける 授業予定	脳卒中の疾患概要と病態1-1(脳出血、くも膜下出血、脳梗塞)、脳卒中急性期			
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	脳出血、くも膜下出血、脳梗塞の病態を理解し、主症状が説明できる。	PC,プロジェクター 教科書	(予習)左記の項目を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習	
	各コマに おける 授業予定	脳卒中の疾患概要と病態1-2(脳出血、くも膜下出血、脳梗塞)、脳卒中急性期			
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	外傷性脳損傷の病態を理解し、必要な評価・治療が説明できる。	PC,プロジェクター 教科書	(予習)左記の項目を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習	
	各コマに おける 授業予定	脳卒中の疾患概要と病態2(外傷性脳損傷) 他:脳浮腫、頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア、ペナンブラ、機能乖離			
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	脳画像を見て、各部名称とその機能を説明できる。CTとMRIの特徴を説明できる。	PC,プロジェクター 教科書	(予習)左記の項目を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習	
	各コマに おける 授業予定	脳画像の読影①(正常解剖、脳出血、くも膜下出血、脳梗塞、頭部外傷)			
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	脳画像を見て、異常部位と出現する症状を列挙できる。その症状を確認するための評価項目を列挙できる。	PC,プロジェクター 教科書	(予習)左記の項目を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習	
	各コマに おける 授業予定	脳画像の読影②(脳出血、くも膜下出血、脳梗塞、頭部外傷)			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	運動麻痺, 感覚麻痺について説明できる。	PC, プロジェクター 教科書	(予習) 左記の項目を教科書で確認 (復習) 履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	脳血管障害の症状(運動麻痺を中心に, 他: 感覚麻痺, 高次脳機能障害)		
第7回	授業を通じての到達目標	運動麻痺の回復過程, 治療の考え方について説明できる。	PC, プロジェクター 教科書	(予習) 左記の項目を教科書で確認 (復習) 履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	運動麻痺の回復と治療の考え方(神経筋促通法), 予後予測とゴール設定		
第8回	授業を通じての到達目標	それぞれの合併症とその予防について説明できる。	PC, プロジェクター 教科書	(予習) 左記の項目を教科書で確認 (復習) 履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	脳血管障害の合併症 (意識障害, うつ症状, せん妄・徘徊, 拘縮, 肩手症候群, 肩の亜脱臼, 起立性低血圧, 深部静脈血栓症, など)		
第9回	授業を通じての到達目標	スクリーニング評価の方法と意義目的を説明できる。	PC, プロジェクター 教科書、参考書②	(予習) 左記の項目を教科書で確認 参考書②も使用する (復習) 履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	高次脳機能障害, スクリーニング評価について		
第10回	授業を通じての到達目標	スクリーニング評価を模擬患者に実施できる。	PC, プロジェクター 教科書、参考書② 実習室	(予習) 特になし (復習) スクリーニング検査の実施手順
	各コマにおける授業予定	評価① CVA患者に対する実際の評価の流れ, スクリーニング検査		
第11回	授業を通じての到達目標	感覚検査を模擬患者に実施し, 記録できる。	PC, プロジェクター 教科書、参考書② 実習室	(予習) 感覚検査の手順確認 参考書②も使用する (復習) 履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	評価② CVA患者に対する感覚検査(表在感覚, 深部感覚)		
第12回	授業を通じての到達目標	反射検査を模擬患者に実施し, 記録できる。	PC, プロジェクター 教科書、参考書② 実習室	(予習) 反射検査の手順確認 参考書②も使用する (復習) 履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	評価③ CVA患者に対する反射検査(深部腱反射, 病的反射)		
第13回	授業を通じての到達目標	粗大筋力検査, 安静時筋緊張検査を模擬患者に実施できる。	PC, プロジェクター 教科書、参考書② 実習室	(予習) 筋力検査の手順確認 参考書②も使用する (復習) 履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	評価④ CVA患者に対する筋力検査(GMT・MMT), 筋緊張検査(安静時), 治療概念		
第14回	授業を通じての到達目標	筋緊張検査(安静時・動作時)を模擬患者に実施できる。	PC, プロジェクター 教科書、参考書② 実習室	(予習) 筋緊張検査の手順確認 参考書②も使用する (復習) 履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	評価⑤ CVA患者に対する筋緊張検査(動作時)		
第15回	授業を通じての到達目標	平行機能検査を模擬患者に実施できる。	PC, プロジェクター 教科書、参考書② 実習室	(予習) バランス検査の手順確認 参考書②も使用する (復習) 履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	評価⑥ CVA患者に対する平衡機能(姿勢反射)検査と治療概念		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法治療学 - 中枢神経 -		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	昼間部2年		学期及び曜時間	後期	教室名	902/機能訓練室
担 当 教 員	金谷 規弘					
<b>《授業科目における学習内容》</b> 理学療法の脳血管障害に対する評価・治療の授業である。脳・血管系の主要疾患とその症状を理解できるようになる。 また、各検査測定(観察含む)の意義目的が説明でき、理学療法評価(各検査測定(観察含む))・治療を選択・実践できるようになる。						
<b>《成績評価の方法と基準》</b> 小テストや課題などで30点、学期末テストで70点の配分で100点満点の成績評価とする。						
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> 教科書:神経筋障害理学療法学テキスト(中枢神経障害理学療法学テキスト 改訂第3版)(南江堂) 参考書:①脳卒中理学療法の理論と技術 第4版(メジカルビュー社)②理学療法評価学 第6版(金原出版)、③DVDで学ぶ脳血管障害の理学療法テクニック(南江堂)、④ベッドサイドの神経の診かた 第18版(南山堂)、⑤脳卒中最前線 第4版(医歯薬出版)、⑥リハビリテーションビジュアルブック第2版(Gakken)						
<b>《授業外における学習方法》</b> (予習)各回の授業内容を教科書①②で確認しておくこと。 (復習)実施後の授業内容を資料、教科書①②を基に復習すること。実技演習後は、その復習も行っておくこと。						
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 苦手意識を持ちがちな脳解剖について、事前に復習して授業内での脳血管障害の病態を理解して欲しい。また、評価と治療の意義目的や効果について説明できるようになって欲しい。出来るだけ症例イメージができるように努めるので、積極的に授業に参加してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	授業を通じての到達目標	各バランス検査を模擬患者に実施できる。		PC,プロジェクター 教科書、参考書② 実習室	(予習)バランス検査の手順確認 参考書②も使用する (復習)履修内容を資料を基に復習	
	各コマにおける授業予定	評価⑦ CVA患者に対するバランス検査(FRT, FBS, 片脚立位など)				
第17回	授業を通じての到達目標	姿勢・動作観察のポイントが分かり、記録できる。		PC,プロジェクター 教科書 実習室	(予習)左記の項目を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習	
	各コマにおける授業予定	評価⑧ CVA患者に対する姿勢動作観察(観察のポイントと記録)				
第18回	授業を通じての到達目標	座位耐性訓練基準を記憶し、離床を進めることの判断ができる。		PC,プロジェクター 教科書 実習室	(予習)座位耐性訓練基準を確認する (復習)座位耐性訓練基準を記憶する	
	各コマにおける授業予定	座位耐性訓練, 離床(車椅子移乗)				
第19回	授業を通じての到達目標	体位変換や良肢位の確保が実践できる。		PC,プロジェクター 教科書 実習室	(予習)左 i ii の項目を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習	
	各コマにおける授業予定	ベッドサイド訓練の実際( i 体位変換, ii positioning, 移動介助など)				
第20回	授業を通じての到達目標	良肢位の確保、上肢体幹の関節可動域運動が実施できる。		PC,プロジェクター 教科書 実習室	(予習)左記の項目を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習	
	各コマにおける授業予定	脳卒中片麻痺患者に対するPositioning, ROMex(上肢・体幹)				
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第	授業を通じての到達目標	体幹下肢の関節可動域運動が実施できる。		PC,プロジェクター	(予習)左記の項目を教科書で確認	

第21回	各コマにおける授業予定	脳卒中片麻痺患者に対するROMex.(体幹・下肢)	教科書 実習室	認 (復習)履修内容を資料を基に復習
第22回	授業を通じての到達目標	脳卒中片麻痺患者に対するベッド上機能訓練が実施できるようになる。	PC,プロジェクター 教科書 実習室	(予習)左記の項目を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	脳卒中片麻痺患者に対するベッド上機能訓練(神経筋促通法,ブリッジ,膝立て位で開閉脚,など)		
第23回	授業を通じての到達目標	筋緊張異常を考慮した起居動作が実施できるようになる①。	PC,プロジェクター 教科書 実習室	(予習)左記の項目を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	訓練室での起居動作練習(寝返り,起き上がり,座位保持) 筋緊張の診かたとアプローチ		
第24回	授業を通じての到達目標	筋緊張異常を考慮した起居動作が実施できるようになる②。	PC,プロジェクター 教科書 実習室	(予習)左記の項目を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	訓練室での起居動作練習(立ち上がり,立位保持,歩行)		
第25回	授業を通じての到達目標	反張膝,内反尖足,槌指,異常歩行に対するアプローチが理解でき,実施できるようになる。	PC,プロジェクター 教科書 実習室	(予習)左記の項目を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	訓練室での治療(反張膝,内反尖足,槌指,異常歩行に対するアプローチ)		
第26回	授業を通じての到達目標	マット上練習が実施できるようになる。	PC,プロジェクター 教科書 実習室	(予習)左記の項目を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	マット上練習,長座位への起き上がり,パピーポジション,四つ這い位,床からの立ち上がり,Kneeling		
第27回	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害へのアプローチが理解できるようになる。	PC,プロジェクター 教科書	(予習) i ii の症状を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	高次脳機能障害へのアプローチ ( i 半側空間無視, ii Pusher Syndrome, 注意障害, 失認, 失行など)		
第28回	授業を通じての到達目標	各種の治療の考え方を知り,理解する。	PC,プロジェクター 教科書 実習室	(予習)左記の項目を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	治療の考え方 歴史を踏まえて・・・ Bobath法, Brunnstrom法, PNF, Rood法, 上田法, 中村法, 制御理論アプローチ, 認知運動療法の治療法の紹介		
第29回	授業を通じての到達目標	ADL指導の方法が理解できるようになる。	PC,プロジェクター 教科書 実習室	(予習)左記の項目を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	脳卒中中のADL指導①		
第30回	授業を通じての到達目標	ADL指導の方法が理解できるようになる。	PC,プロジェクター 教科書 実習室	(予習)左記の項目を教科書で確認 (復習)履修内容を資料を基に復習
	各コマにおける授業予定	脳卒中中のADL指導②, まとめ		